

# 放送大学 北海道同窓会会報

第 31 号

発行 放送大学北海道同窓会

発行責任者 沖野 茂夫

編集 広報担当

発行日平成 29(2017)年 11 月 30 日(木)

URL:<http://hhdoso.sakura.ne.jp>

会員数 225 日名(2017 年 11 月 30 日現在)

「これまでの活動を振り返って」

放送大学北海道同窓会  
会長 沖野 茂夫

放送大学北海道同窓会の活動に深いご理解と暖かいご支援をいただきまして、会員の皆様には、紙面をお借りして感謝を申し上げます。また総会で会長職をお引き受けして以降、私の不慣れな事業運営を、終始バックアップいただいた皆様にもお礼を申し上げます。



さて同窓会の活動もこの会報 31 号の発行の時点で、29 年度事業のほとんどを消化することになります。残された主な事業は「平成 29 年度 2 学期卒業を祝う会」ですが、このほかにも取り組んできた事業の反省、また会員からの指摘を参考にしての「事業内容の検討・吟味」が必要となります。

今のところ限られた役員の数に対して「事業の頻度や内容が過多になりすぎてはいないか」との指摘があり、これをいかにバランスのとれたものにしていくかが第一の検討課題です。

現在、一番マンパワーが必要な事業は年 2 回開催している「放送大学研究発表会」ですが、まずこの事業の開催回数・内容・開催時期等が適当かどうかの検討に入り、変更が必要との結論がなされれば、出来るだけたくさんの会員の皆様のご意見を頂戴し、実行委員会に反映させたいと思います。

一方で、新たに役員になっていただける方の勧誘活動も必要です。ただし、札幌から遠い地域にお住まいの方が多くおられる、また仕事を持ち家庭を持っていてそれに時間を充当しなければならない会員がほとんどというのも現実です。

そこで役員にはなれないが、空いた時間で「会報の発送、研究発表会の受付、会報記事の情報提供等のお手伝いならできる」という方々に活動に参加いただける機会を作っていきたいと考えています。

こうした作業の間の会話は、放送大学についての知的情報の宝庫で、きっと得るものが多々あると思います。ぜひ会員の方々には手をあげていただきたいと願っています。同窓会という横断的な組織を利用して、情報交換を密にして、とかく孤独になりがちな通信教育を相互交換的なものにしていただきたいと考えているところです。

# 第5回放送大学東北・北海道ブロック交流会

## 同窓会交流会報告書

北海道同窓会 幹事 岩崎 英子

実施日時・場所

9月2日(土) 山形学習センター 101 教室

第1部 13時30分～15時15分

第2部 15時35分～17時00分

懇親会 18時00分～20時00分

9月3日(日) 山形の街歴史探訪

9時15分～13時00分

出席者

① 連合会	会長 津野 和子	・理事 須藤 國夫
② 北海道同窓会	会長 沖野 茂夫	・副会長 宮崎 新吾 副会長 中根 恵美子・幹事 岩崎英子
③ 青森同窓会	会長 関川 宏明	・副会長 田澤 豊 会員 鳩 真由美
④ 宮城野会	事務局長 森 俊英	・理事 磯辺裕子 理事 佐藤 弘子
⑤ 福島同窓会	会長 齊藤 栄一	・副会長 庄司 和則
⑥ 秋田同窓会	会長 田口 陽一	・副会長 高橋 晴子 副会長 関山 尚三
⑦ 岩手同窓会	森 友江	
⑧ 山形同窓会	代表 柳澤 卓	・副代表 遠藤 凱雄 副代表 武田 佳世子・幹事 佐藤 ちゑ子 幹事 吉野 信次・浅野 みよ子・伊藤 典子 幹事 岡崎 由美子・斎藤 好夫・平泉 良一 幹事 落合 京子 ほか8名



○ 9月2日 第1部

- ・はじめに山形県同窓会柳澤会長の開会挨拶と山形県学習センター櫻井所長の来賓挨拶があり、次いで同窓会連合会津野会長より挨拶がありました。そのあと、放送大学客員教授(山形大学教授)山本陽史先生より記念講演「芭蕉はなぜみちのくを旅したのか」についての講演がつづきました。芭蕉の奥の細道は、深川移住から旅が始まり白川の関、医王寺、飯坂、常信庵、多賀城、塩竈、松島、石巻、平泉、山刀切峠、尾花沢、立石寺、山寺、大石田、最上川、鶴岡、酒田、象潟、越後、佐渡、市振まででした。講演は短歌・和歌が豊富で芭蕉が感じたような季節感あふれるおはなしでした。是非、北海道学習センターの面接授業でじっくりと講義が聞けたら良いのにと思いました。



第2部

20分ほどの休憩を挟んで第二部の情報交換会「各県同窓会の現状と課題」が実施されました。山形県同窓会柳澤会長から挨拶があり、以下の各同窓会から報告があった。

- ・宮城県同窓会「宮城野会」からは年間活動報告があり、同窓会、学習センター、サークル&学生会の三者が良好な協力関係にある。移動役員会として東日本大震災の被災地訪問、「津波のあとの時間割」の上映会開催、12月に「修士論文・卒業研究発表会」を継続実施、同窓会名簿を3年ごとに更新する、「宮城野会」年間活動計画を冊子化し役員会で活用してとの発表があった。課題として役員の減少があり、それに伴い役員の負担軽減の方法、同窓総会を卒業生に限定せず学生会も取り込んで組織化した場合のメリット、デメリットについて検討してはどうかとの問題提起があった。
- ・北海道同窓会からは、活動報告として、同窓会会報の発行、卒業を祝う会、ひとこと集の発行、入学者歓迎茶話会の運営手伝いを、それぞれ年2回行っていること、研究発表会(年2回)・文化祭(年1回)を実行委員会(学習センター・学友会などの学生サークルと協働)として開催していることを発表した。同窓会として活動が活発なのは良しとして、一方で一部同窓会役員に多く負担が生じている。作業ボリュームの低減あるいは担当できる人材の確保が課題となっている。



- ・ 秋田同窓会からは、機関紙「千秋の里第8号」の発行など年間活動報告がありました。役員の高齢化、健康状態に不安があり役員体制の確立が課題。機関紙発行に伴う経費の削減も検討課題となっている。
- ・ 青森県同窓会から年間活動報告があり、同窓会役員が少ないため、活動が小規模になるので会員数を増やすためのイベントなどの試みについてが課題となっている。
- ・ 福島県同窓会から年間活動報告があった。学習センターとの信頼関係の確立が最大の課題になっている。
- ・ 山形県同窓会から年間活動報告があり、サークル役員と同窓会会員が重複していて活動にサークルの会員が連携してくれている。会員にとって有意義で楽しめる行事とは何か、三役候補の探し方などが課題となっている。

最後に同窓会連合会から同窓会会誌のネット配信促進のおすすめや情報提供がありました。会場は終始、各同窓会から盛んに質問などが飛び交い、大変活況のうち終了時刻となりました。

#### ○ 9月2日 懇親会

- ・ 会場を霞城セントラル中華料理「紅花樓」で櫻井山形センター所長、公開講演会をしてくださった山本先生をはじめ、他の同窓会メンバーなどが参加して、会議の中では話しきれなかったことについて、大いに語り合うことができました。山形同窓会の花笠音頭でみんな和気藹々と盛り上がりました。

#### ○ 9月3日 山形の街歴史探訪

学習センター集合→山形市内の循環バス→文翔館（案内ボランティアガイド説明）  
→七日町御殿堰→七日町、本町通り散策（山形同窓会会員説明）→紅の蔵 蕎麦昼食  
→閉会の挨拶解散→学習センター（預けた荷物受け取り）

山形の街を散策しながら山形同窓会皆さんの優しさにふれ、お土産の手配まで手伝っていただき感激しました。

来年の北海道開催に再会を誓って二日間の東北・北海道ブロック交流会は解散しました。

以上

# 第 15 回放送大学研究発表会開催

第 15 回放送大学研究発表会が行われました

第 15 回放送大学研究発表会実行委員会  
実行委員長 宮崎新吾

本年 9 月 9 日（土）に「第 15 回放送大学研究発表会」が開催されました。

4 月に、第 14 回を数えた放送大学研究発表会は皆様方のお力添えによって、充実した研究発表会とすることができ、また、こうして第 15 回も本当に有意義な研究発表会とすることができましたことは、皆様のご協力のおかげと実行委員一同深く感謝しております。

この研究発表会は、放送大学大学院で研究をした修士生を中心に、最先端の研究成果を発表する場であるとともに、学部を卒業した学生の中からも、興味深い研究をしている学生を選定して、比較的身近な仲間たちからの発表の場となるよう位置付けております。また、この発表会を通じて、参加された皆様が楽しみながらより知見を深められること、そして、次回は自分も発表してみたいと思っただけけるよう開催の場を作っているものであります。運営は実行委員会形式をとり、学習センター、学友会などの学生サークル及び同窓会の融和をはかり、協働して企画運営してきているものです。現役の学生として学習センターや学友会などの学生サークルに日常的に親しんでいる方はもちろん、同窓会の会員として、卒業生として新たな道に進んでいる人、また、再入学して勉学に励んでいる人など、様々な人たちが一体となって、まさに「自分たちでつくる」、聴いてよし、発表してよし、運営してよしの三拍子がそろった研究発表会です。

さて、今回は札幌学院大学名誉教授・前札幌学院大学学長の奥谷浩一先生にご講演をいただきました。題目は「江戸時代の朝鮮通信使の歴史的意義」で、これまでの歴史観の中で、鎖国の時代とされる江戸時代にも徳川幕府と朝鮮国との間に正式の国交関係があり、「朝鮮通信使」による日韓の友好を、現代までも伝えることとなった歴史的意義を中心に、はじめてお聞きになる方にもわかりやすくご講義いただきました。



講演は、朝鮮通信使について、日朝両国の正式な外交関係に基づき朝鮮から日本へと国書をもって派遣された正規の使節団が存在し、それを日本側から指示したものであるという、言葉の意味から丁寧に教えていただきました。その中で、「日本と朝鮮との間には有史以来

物資と文化の交流があり、対馬藩がこれらの交流の仲介者を担っていた。しかし、豊臣秀吉による朝鮮侵略が行われ、1592年から1598年までの7年間にわたる侵略は秀吉軍の敗北によって終わりを告げた。その後、徳川家康によって朝鮮通信使が再開されたが、このことは日本と朝鮮の間だけでなく、中国（当時の明）ともバランスを維持し、東アジア全体の平和に貢献するという意味を持っていた。しかし、日韓両国の通信使の迎撃はすべて彼らの滞在地の負担となっており、それが地域の財政を圧迫することにつながり、やがて通信使そのものが途絶えてしまう一つの理由となった」と教えていただきました。また、奥谷先生ご自身も朝鮮通信使が辿った道のりを自らの足で踏破され、その間に撮影された貴重な写真も披露してくださいました。

学生の部は2題発表がありました。

1題目は、放送大学大学院生活健康科学プログラム修了の佐々木可奈恵さんによる、「エゾシカ嚥下調整食の開発と特別養護老人ホームにおける提供の試み」と題し、近年問題となっているエゾシカによる農林業被害と特別養護老人ホームでのエゾシカ肉の提供について発表がありました。この中では、単にエゾシカを提供するのではなく、嚥下調整食としておいしく提供できることができるようにするためにはどうすればよいかの研究について、アンケート調査などとともに発表しました。



2題目は、同じく放送大学大学院生活健康科学プログラム修了の高國憲二さんによる「在宅で生活している高齢者、障がい者への物理療法の現状」と題し、病院や医療施設では有効に活用されている物理療法が、在宅分野ではほとんど活用されていない現状を分析し、在宅分野における物理療法の可能性について発表がありました。

今回の研究発表会も、学習センター所長をはじめ多くの方々からご協力をいただき、参加者は102名になりました。道民カレッジの学生も多く参加して下さり、みんな最後まで熱心に聴講していました。このように盛会に開催できたのもひとえに皆様のおかげと感謝しております。また、第16回は银杏の黄葉が見ごろとなる来年10月28日開催予定ですので、ぜひ一度ご参加ください。

## 第15回 放送大学研究発表会アンケート 集計報告

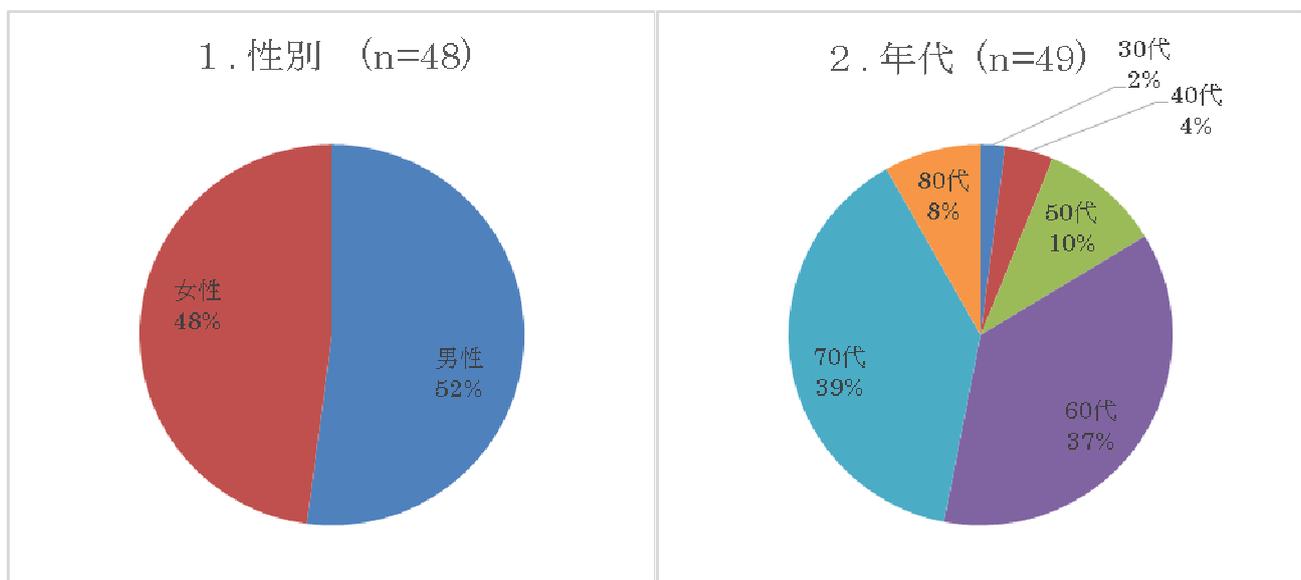
平成 29(2017)年 9 月 9 日実施  
放送大学研究会実行委員会

### ✓ アンケート方法

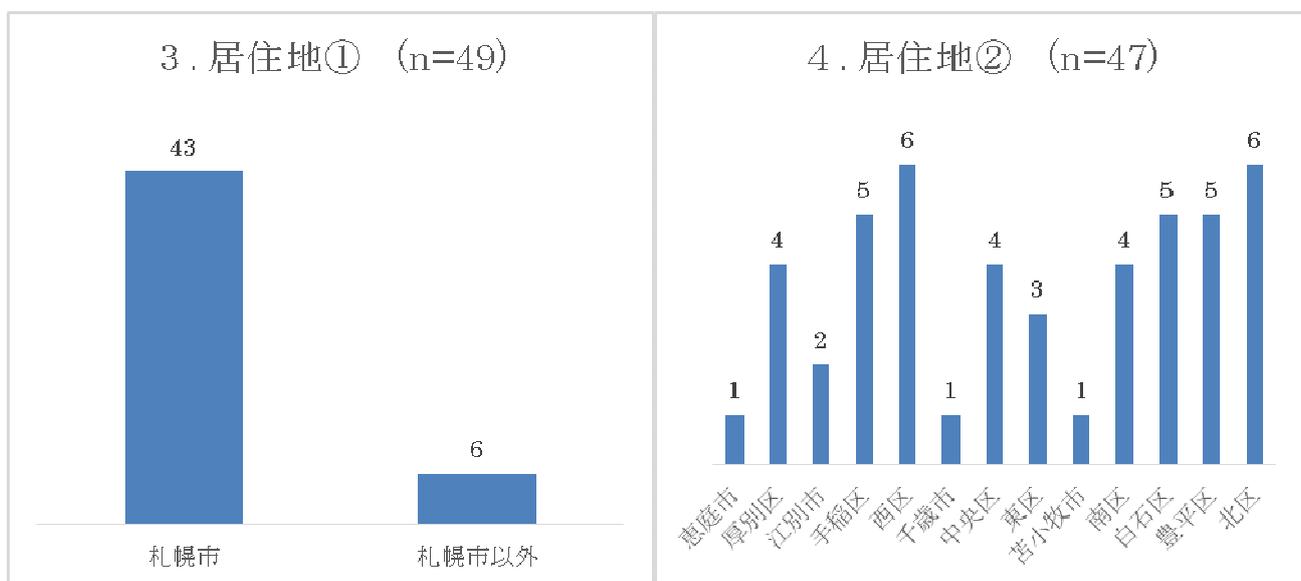
- 受付時に資料と共に配布し、研究発表会終了後に回収。
- アンケート有効回答数 49 (50 回答中、無効 1)

### ■ 選択回答欄 集計グラフ

#### 問A) あなたの性別・年齢は・・・ (グラフ 1,2)

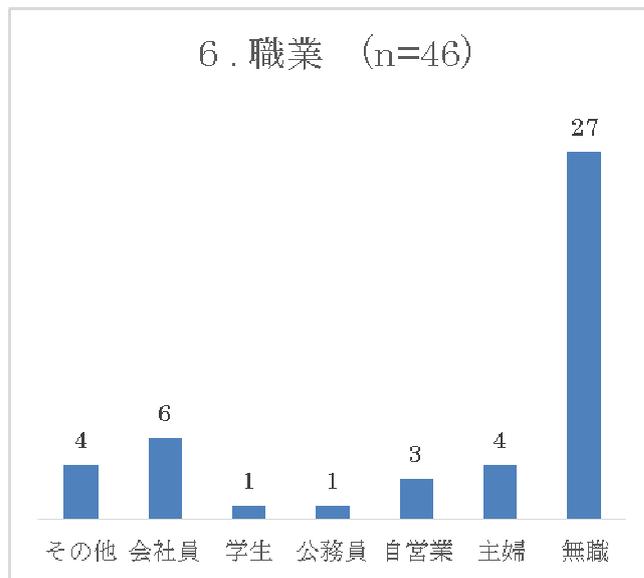
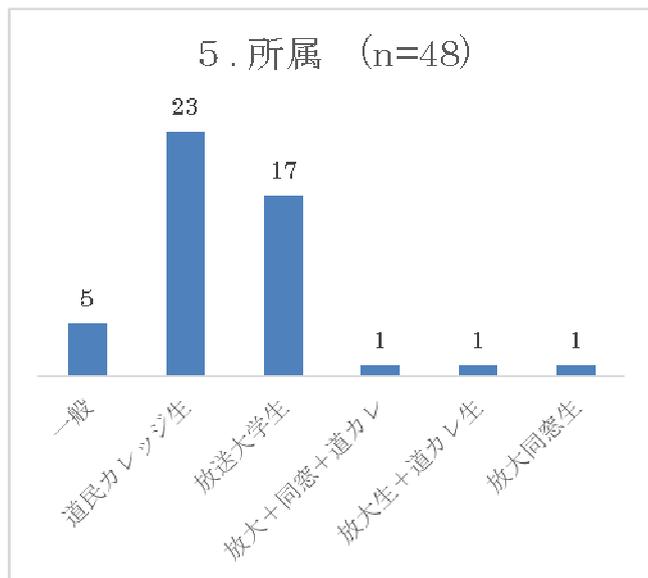


#### 問B) あなたのお住まいは・・・ (3.4)



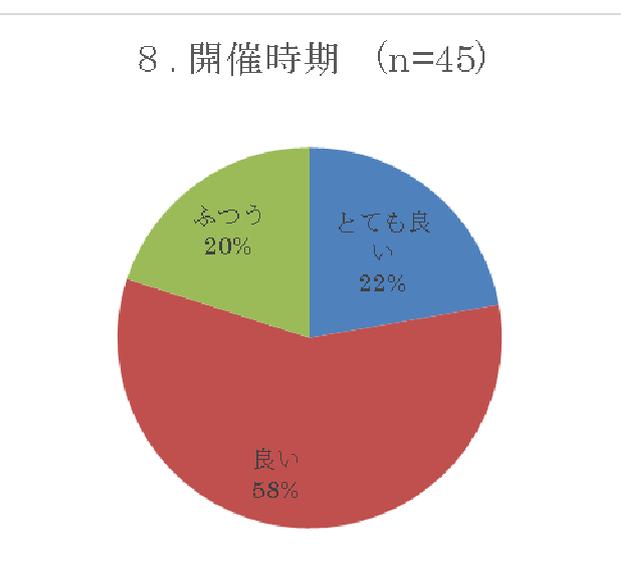
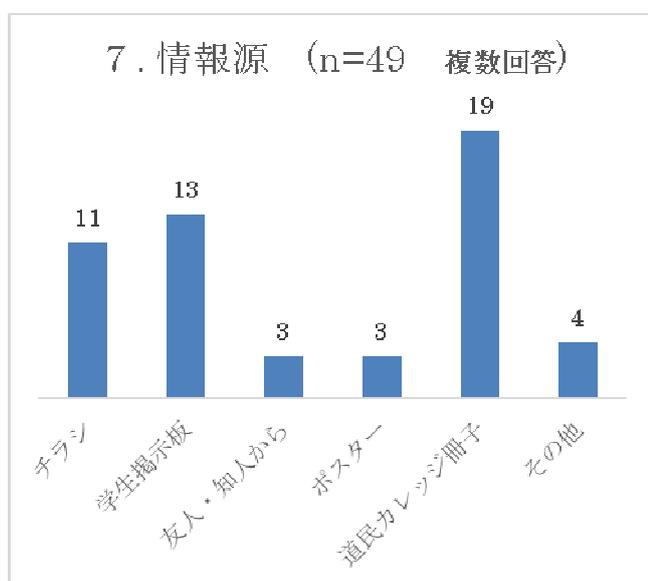
問C) あなたは（放送大学生・北大生・放大同窓生・道民カレッジ生・一般・その他） (5)

問D) あなたの職業は (6)



問E) あなたはこの発表会を何によって知りましたか (7)

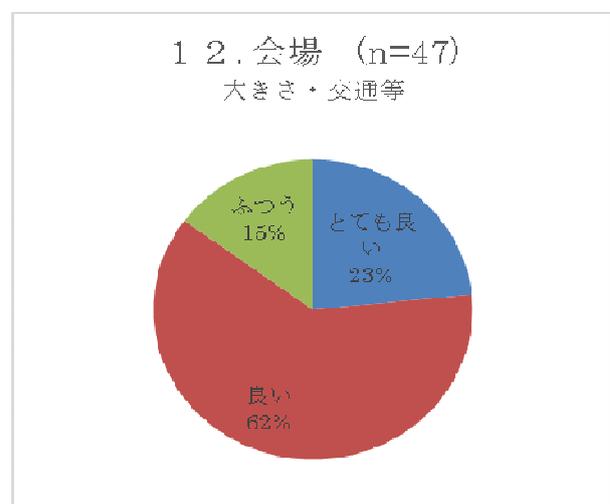
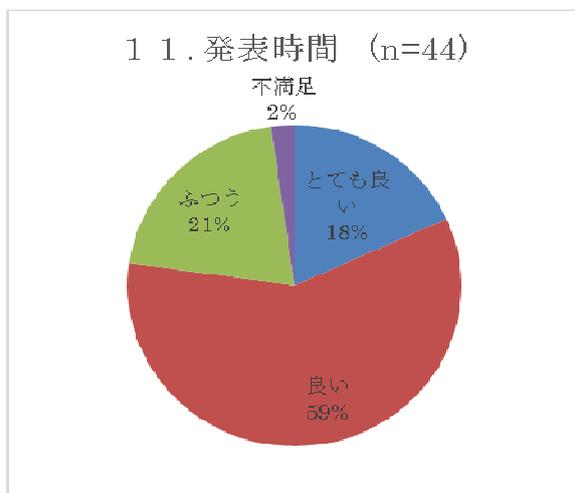
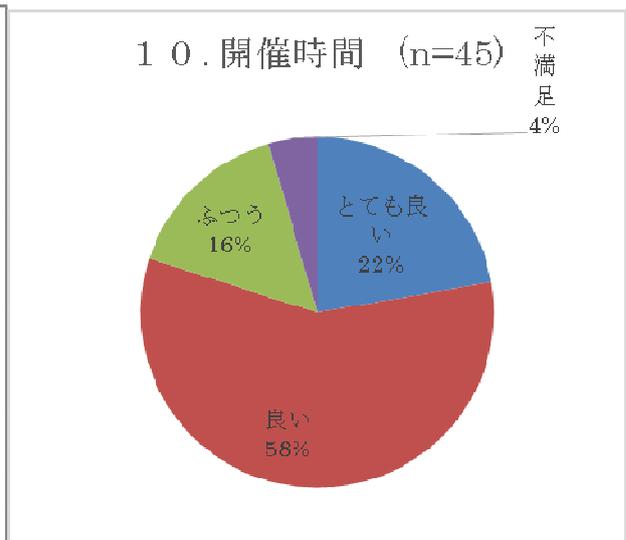
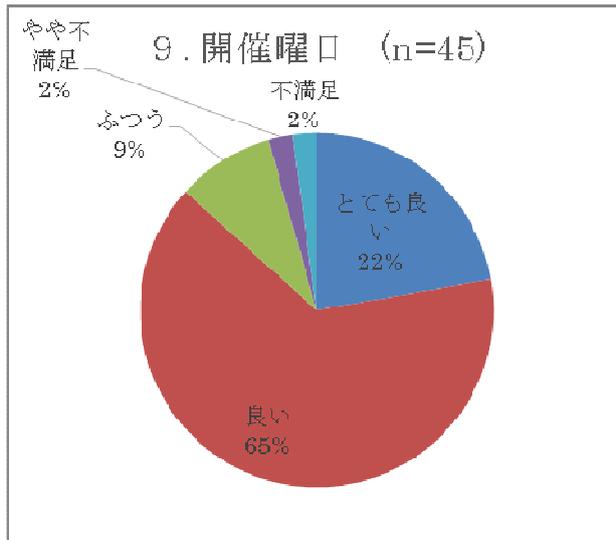
問F) 発表会について... 開催時期(8)・曜日(9)・開催時間(10)・発表時間(11)



※情報源 (問 E: あなたはこの発表会を何によって知りましたか)

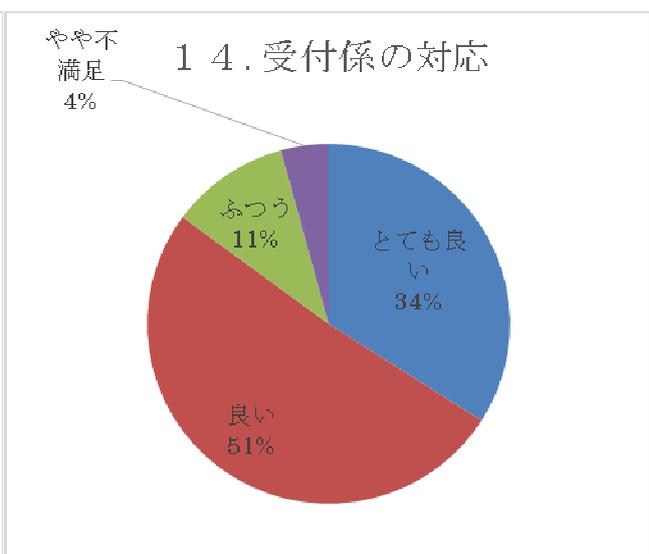
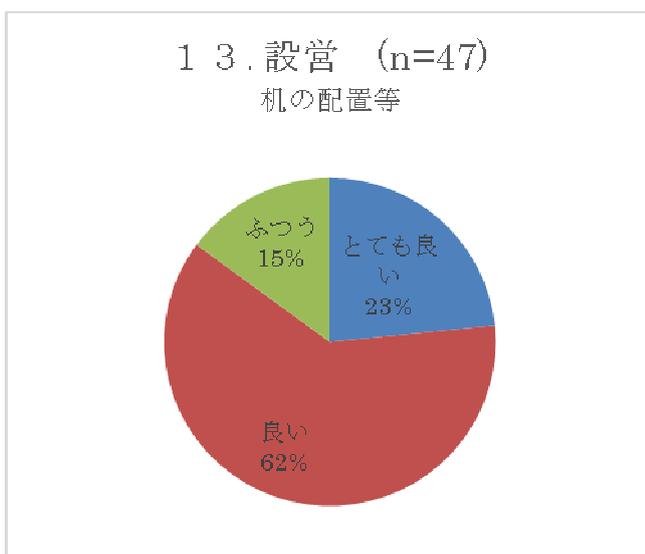
➤ 「入手場所」・「見た場所」・「その他」自由記入欄

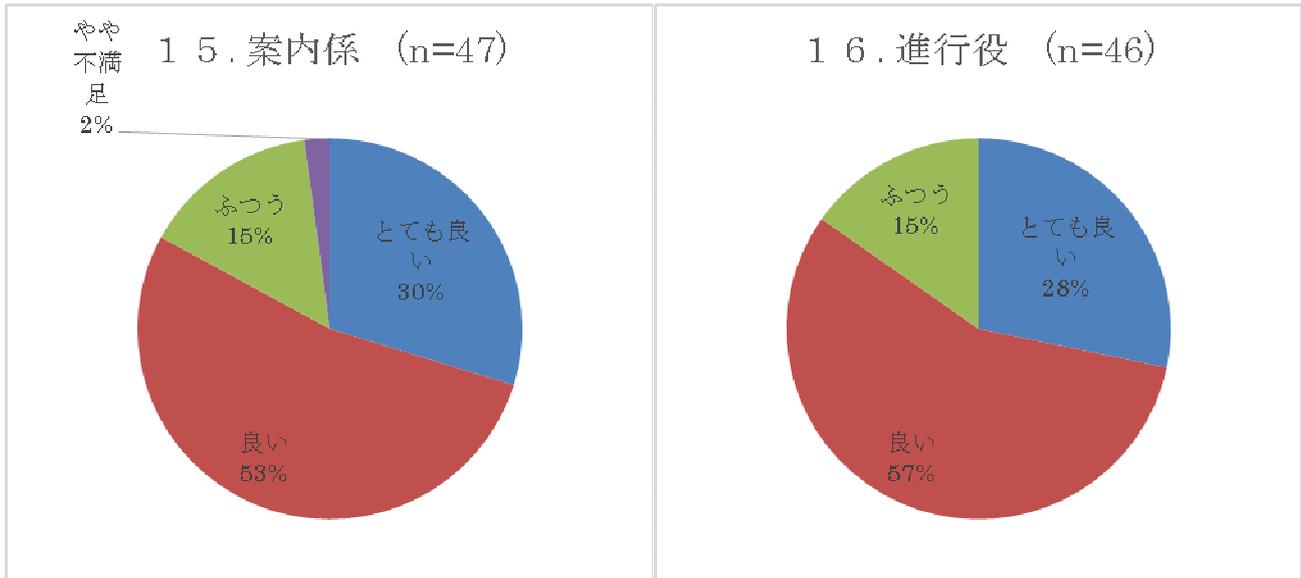
- ポスター 栄町駅(1)、かでの(1)
- チラシ 放送大学北海道学習センター(1)、
- その他 てんとう虫(2)、新聞(1)、まんまる新聞(1)



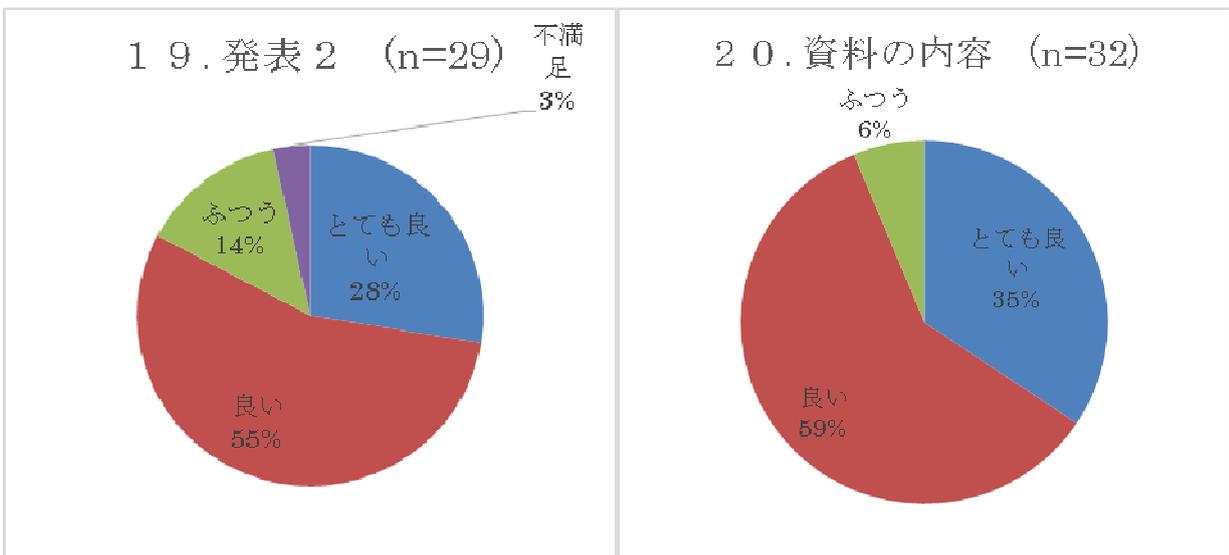
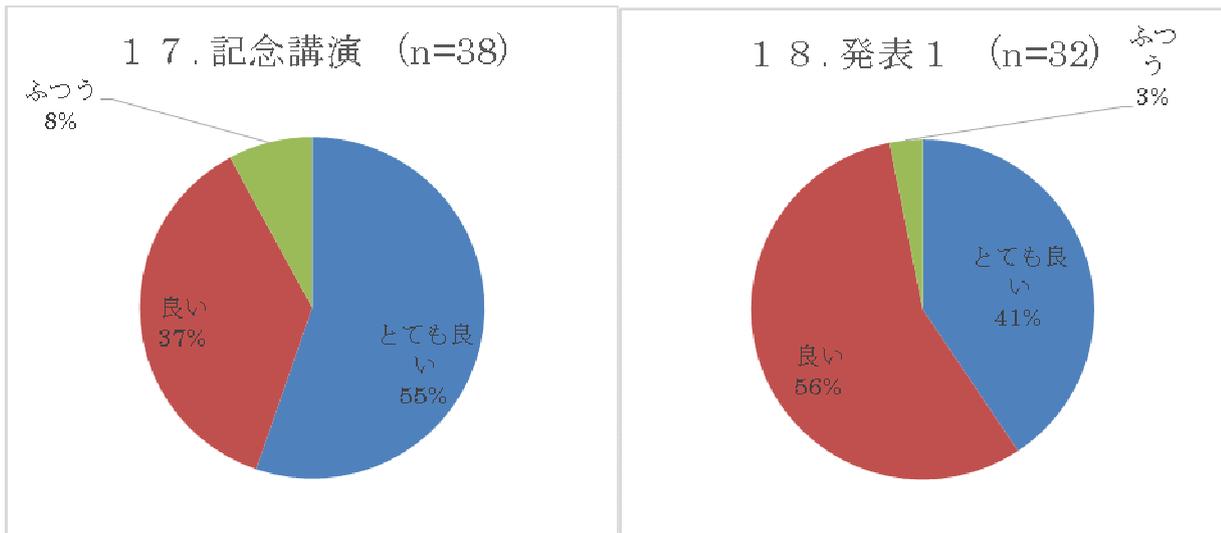
● 会場について・・・

会場(12)、設営(13)、受付係の対応(14)、案内役・会場係(15)、進行役の説明等(16)





問G) 内容について・・・ 記念講演の内容・発表1の内容・発表2の内容・資料の内容



## ■ 記述欄 集計

記述欄のある設問

問 F) 発表会について

問 G) 会場について

問 H) 内容について

問 I) 今後研究したいテーマがありますか？

問 J) 今回の研究発表について、ご意見・ご感想などをお書きください。

### 問 F) 発表会について

- 時間をかけての研究に敬意を表します。志度先生のアドバイスもよかったです。
- 地域性のある素晴らしいお話ですから、出来ましたら、働く現役世代 30~50 代でも訪れやすい夜間や日曜日の方が、より多くの方々が訪れる機会になったと思います。
- 残念ですが 3 時に帰ります。歯が痛んできて申し訳ありません。
- 時間が短い（発表）
- 参考になりました。

### 問 G) 会場について

- 良いです。
- 地下鉄から 5 分以内程度の方が幅広い道民に聴講いただけるのではないのでしょうか。
- ゼミの日と合わせての開催は少し疲れるので、ゼミと発表会を重ねないで欲しいです。
- No problem

### 問 H) 内容について

- 興味深い講演でした。
- 記念講演の奥谷先生の追求心が表われた講演でよかったです。
- 奥谷先生の講義、楽しく興味深いものです。
- 講演が大変興味深かった。
- 記念講演は、大変興味深く良い講演でした。もっと朝鮮通信使について学びたいと思いました。スライドも大変効果的で、理解が深まりました。ありがとうございます。
- 朝鮮通信使が世界記録遺産に決まることを祈る。この歴史にもっと光があたりますように。
- 記念講演：朝鮮通信使というものは分っていませんでした。今日の講演をお聞きして、少しだけですがわかったような気がします。そして朝鮮についても少しだけ理解しました。日朝関係はなかなかむずかしい。

- 記念講演について、結論から→大変良かった。  
日韓関係について、ここ数年は特に国交が円満とは言い難いと思う。韓国は大戦後、国交正常化にいるし日本国としても多大な経済支援をしてきた。合意している協定を再三繰り返す（慰安婦問題等）のは、日本国の基本概念が相違しているのでは？とも考えさせられます。
- 記念講演：時間が短いこともあり、まとまりが無い。短いなりにまとめてほしかった。内容については興味深かった。
- 朝鮮通信使の詳細が訊きたいと思い参加いたしました。江戸時代の日本を「鎖国」と表現するような現代の日本の歴史認識を事実に基づいた表記にするべく教育に活かして頂きたいと痛感しました。興味深く聞かせて頂きました。
- 記念講演の内容は近年問題化されている朝鮮半島の問題と重なる部分も多くピッタリの時期に行なわれたと思う。習ったことのない歴史内容が多く大変勉強になった。私たちの年代もそうだが子ども達にも教える機会を与えるべきだ。韓国側はこの使節団について、どう教育しているのかも知りたかった。人形は後ろにも見える様に高くかかげてもらいたかった。改めて隣国と友好を結ぶ事の重要性を知れた。あの時代委は道のりが険しくとも交流できたのに現在便利な交通方法があるのに交流がスムーズになされているとは言い難いので、おかしい時代だと思う。
- 記念講演については興味深くもっとじっくり聴いてみたいと思いました。発表Ⅰについては、コメンテーターの方も話されていたが、研究目的、内容、方法、方向性、考察、研究の発展性ともに論文作成の典型例のような発表であった。発表Ⅱは??
- 記念講演は日韓関係や朝鮮問題の歴史・時代を考える上にタイムリーな話だったと思います。参考になりました。発表Ⅰは食害と地産地消にとくに関心が持て、また福祉施設と高齢者のそしゃく、嚥下調整食の開発という前向きな取組みの試みで大変興味を持ちました。発表Ⅱについては在宅介護のPTアンケート調査に基づく分析でした。有効な話と思います。在宅、入院、入院を含めた相関利用を目的とした資料として (PT) ○ ○ (※判読不能) のプログラムと効果、課題など臨床面 (実証面) があればより良かったのではと思います。
- ある本の中で、この通信使について知りましたが、系統だって述べられたものがなく機会があれば知りたいと思っていました。わかりやすく時代の流れに沿って話され、一般人でもよく理解できました。
- シカの捕獲について、昔ながらのライフルで殺してという方法がとられています。生きのまま捉えることができれば山奥からでも運び出すことができるのではないのでしょうか。動物園等でも教えていただいた麻酔を使えば、可能かと思います。
- 食や医療に対して興味深い内容が多かったように思います。

問I) 今後研究したいテーマがありますか？

- ①紛争予防学（平和学） ②国際政治学 ③図書館学
- 日本経済の問題。朝鮮問題（南北とも）
- 2年後に卒論を考えていますが、確実たるテーマに結び付かず不安の中におります。参考になるかなと探しているときです。出来れば、着物・染め等のものづくり・・・にかかわれないかと考えています。（入学したころは美学“芸術”と考えていました）
- 医は「仁術」の志を取り戻す方法（最近の医者はビジネスと心得ているようなので）
- 牛・鶏について

問J) 今回の研究発表について、ご意見・ご感想などをお書きください。

- 参考になりました。
- 参考になりました。ありがとうございました。
- 現行では、多くが廃棄されているエゾシカ肉の普及に向けた研究ということ（介ゴ分野でしたが）大変な命です。今後活用が広まればと思いました。
- 今後の研究発表に、積極的に参加したい。

## 次回開催予告

# 第16回放送大学研究発表会

平成30（2018）年10月28日 土曜日午後1時から

博士課程修了・修士課程修了・学部卒業の皆さま

研究発表会実行委員会では研究発表者を募集しています。  
たくさんの応募お待ちしております。

第16回放送大学研究発表会実行委員会  
実行委員長 宮崎新吾

受付窓口 FAX011-642-2389 e-mail [tomi-2.7.2@jcom.home.ne.jp](mailto:tomi-2.7.2@jcom.home.ne.jp)

# 第9回文化祭開催しました

## 第9回文化祭を終えて

第9回文化祭実行委員長 沼畑 亘宏

第9回文化祭が平成29年9月12日(火)から9月16(土)まで行われました。文化祭は、講演・ステージ発表、映画祭、作品展示、学生の卒論・修士論文のポスター展示等、バザーを行いました。その概要をご紹介します。

会期中の9月16日は以下を開催しました。

### (6階大講義室で開催)

#### ☆講演会

講演者 : 新田 孝彦 氏  
北海道学習センター所長  
北海道大学名誉教授  
前北海道大学副総長



講演演題：「高度技術社会における生命のこれから」－倫理学の視点から考える－  
現代の高度科学技術を倫理面からの視点での切り口での講演であり、大変興味深いもので、内容的にはかなり奥深く、高度な内容でありましたが、理解しやすい語り口で解説してくださいました。参加人数は71名で60代以上が2/3を占めました。



#### ☆サークル発表

次の二つのサークル発表がありました。

- ① 英語サークル
- ② パソコン学び隊

## ☆ステージ発表



うたの会の合唱は、皆さんおなじみの歌ばかり4曲で、思わず口ずさむ人も。



落語は北大落語研究会演目は「勉強」



手品は楽しい話術を交えながらの演技



朗読は「宮沢賢治を読む」を中川俊二さんが、よくとおる声での朗読でした。



ギター弾き語りは、良く知っている曲を弾きながら歌ってくれました。

## (5階 ロビーで開催)

### ☆バザー



皆さん!! 文化祭バザーに沢山の品物をご寄附下さりありがとうございました。お陰様で収益金が26,065円となり、一昨年まで同窓会で負担していた運営費用は前回からバザー収益金から支払うこととなり11,306円を支払い残金14,759円は銀行預金としました。合計金額は122,934円となりました。多数の皆さんのご協力がありました。今年も電話などでおねだりし、皆さんを当惑させながらのバザーでしたが、文化祭の一翼を担えたのではと思います。今年は文化祭が9月に変更になったので、「11月になってからバザーはまだなの?」との問い合わせが3件ほどあり、開催時期変更を日ごろから伝えていく必要があると思います。来年のためにも皆さんに日頃から心がけて頂いて、文化祭用紙袋を目の付く所に置いて少しでも集めておいて欲しいと思います。バザーの収益金は学生支援や母校のためにみんなで考えて使わせて頂く事になっています。これからも文化祭を、その中でバザーも応援して下さい。そして文化祭を楽しみ同窓・学友同士の絆を深めようではありませんか。

## (中講義室で開催) 9月13・14・15日

### ☆ドイツ映画祭

ドイツ映画3本を上映しました。毎回、筑和前所長の絶妙な解説付きで、毎年楽しみにしているリピーターも増えました。

## (会議室・6階廊下で開催)

9月12日から16日

### ☆展示作品

絵画、書道、手芸、絵手紙、写真、等の展示です。



## ☆ポスター掲示

- ・「日本の絵の余白が西洋美術に与えた影響についての一考察」
- ・日露戦争と戦捷祝捷会一提灯行列の隆盛と群集活動の展開」
- ・「アジア太平洋戦争がフィリピンにもたらしたもの」
- ・「遠野物語の舞台をたずねて」
- ・事例紹介「少人数・小規模」  
ビブリオバトル



## ☆ポスター展示

「English circle」「フランス語サークル」「学友会」「地球守り隊」の各サークルと「同窓会」のポスターの展示がありました。



多くの皆様のご苦勞がにじみ出る作品ばかりで、出展初参加者が3名いました。会場は見学者が毎日訪れ、賑やかでした。並みいる力作に展示場は盛り上がりました。

## 第10回文化祭のお知らせ

日時 平成30年9月中旬の予定です

場所 放送大学北海道学習センター5階6階

\*講演会・サークル発表・ステージ発表・展示、バザー等を予定しています

同窓生の皆さん!お誘いあわせの上、参加して下さいね

第10回文化祭実行委員会

## 9月24日 平成29(2017)年前期の学位記授与式がありました

放送大学北海道学習センター(出席者30名)、旭川サテライトスペース(出席者6名)で執り行われました。苦難を乗り越えてはれて学位を手にした方、本当におめでとうございます。今学期の北海道学習センターから84名の新学士と新修士が旭川サテライトスペースから13名の学士が誕生しました。



# 卒業・修了を祝う会の様子

## 学生サークルうたの会から歌のプレゼント



卒業を祝う会 9月24日(日) 学位記授与式の後、同窓会主催による「卒業・修了を祝う会」が、15時30分から行われ、各テーブルには、紅白の饅頭と、お赤飯が用意されました。オープニングは、学生サークル「うたの会」の「放送大学学歌」、「北海道放大学生賛歌」「喜びの歌」で始まり、主催者の沖野同窓会長が挨拶、新田北海道学習センター所長・伊藤事務長の来賓挨拶があり、卒業・修了生代表から北海道学習センターに図書寄贈目録が新田所長に贈呈されました。





## ご卒業された皆様からのひとこと

《生活と福祉コース》 札幌市白石区  
長坂 睦子

はじめ大学という二文字の重圧がありましたが、私自身少しの時間でも勉強に励み、又、苦あれば楽ありと自分に言い聞かせ、頑張ってきました。最後まで遣り遂げてほんとうに良かったと思います。

今は充実した気持ちでいっぱいです。

勉強の癖も付き、こんどは楽しみながら、英語でもと思っております。事務の方がたにもいろいろとお世話になり、ほんとうに有難うございました。

\*\*\*



《社会と産業コース》  
美幌町 斎藤 公威

「本当に長かった」の一言に尽きます。途中何度も止めようと思いましたが、ゴールが見えない、しかし「継続は力」であると自分に言いかけ一歩一歩、粒粒辛苦歩みを進めて、この度晴れて卒業となりました。我ながら感無量であります。「学ぶ」ということを通して学んだことは、いろいろな面から物事を見られるようになったことです。

自分で考えて行動することの重要性を改めて感じました。そして論理的にかつ理性的に事象を深く掘り下げて考えられるようになったことも放送大学で学んだことが役立っています。

「少年に学ばざれば、老後に知らず」今からでも決して遅くはない。これからも学び続けようと思います。真理目指して！最後に家族等や学校等関係者の皆様には感謝申し上げます。



### 《心理と教育専攻》

札幌市西区 宮本 みゆき

3年時に編入学してから、卒業までに17年かかりました。始めた当初はまだ若かったこと、社会人であることも手伝って、学びから全く遠のいた時期もありましたが、細々と継続し卒業をすることができるのは大変な喜びであり感慨もひとしおです。

学習センターやサテライトスペースの方々には心より感謝しております。

勉強が進まず悲鳴を上げながら取り組んだこともありましたが、いざ卒業となると少し寂しい気もします。学んだことをこれからの人生に活かしてゆきます。大変お世話になりました。ありがとうございました。

\*\*\*

## 第3回インターナショナルゴミ拾いビーチウォークに参加しました。

### 石狩三線浜の清掃に参加して

沖野 三津子

9月24日当日は朝から晴天に恵まれ、エルプラザ前からの手配バスで無事石狩三線浜に到着しました。前日が雨で浜の入口付近はかなりぬかるんでいたのですが、長靴がなくても大丈夫でしたのでホッとしました。



ゴミは大きなものでは鉄くず、魚網等が半ば埋もれた形であり、男性が数人で引っ張り出すという光景にも出くわしましたが、全体的にはプラスチックの破片が多いなという印象を受けました。引っ張り出してみたら紙オムツだったという例もあり、困ったことだと改めて思いました。

この行事にはいつも学生さんも参加し、若い力で私達を牽引してくれていますが、卒論でゴミの問題に取り組んでいる大学生の方に途中で会い、質問を受けたりしました。こういう若い人が増えてほしいと思います。その為には小さい頃から海等にゴミを捨てることで生態系に影響が生じ、それが巡り巡って自分達におおい被さってくることを学び、又伝えていく必要性を感じます。



先日、新聞で微小プラゴミ（マイクロプラスチック）による海汚染が取りあげられていました。日本は化粧品や洗浄剤などへのマイクロビーズの使用は自主規制を呼びかけるにとどまり、対策は企業任せになっているとのことで残念に思います。ただし海岸でのごみ拾いが有効とのこと

で、例えば10グラムのプラスチック片が0.1グラムのマイクロプラスチックになると10万個に増えるのを防げるとあり、海岸清掃を続ける元気を少しもらった様な気がしました。

海清掃の作業の後は丁度、鮭祭りの日だった事もあり、そちらに移動し、お祭り気分を味わいました。その後温泉に浸りリフレッシュして帰路につきました。バスの中に確かベラルーシ出身の方と記憶してますが、長袖やジャケットを着ている人がほとんどの中で、その方がタンクトップだったのが印象的でした。

閉会式の時に大きなワンちゃんも参加していたのが楽しかったことと、副会長さんの挨拶で「一度これに参加した人はもうゴミを捨てる人にはなりません」という言葉が心に残っています。

## パソコン学び隊 隊員大募集



学習センター実習室にてパソコン実践練習をしております。  
入門・初心者の方は、放送大学のパソコンのログイン方法、放送大学のホームページの使い方から学んでいます。

**活動日 月2回 土曜日 パソコン実践練習（パソコン実習室 13時から15時）**

**参加は、活動時に随時、もしくはメール、電話で受け付けております。**

**メールでのご連絡時には、「放送大学チラシ見て」という件名でお願いします。**

**メール：[miyasabon@yahoo.co.jp](mailto:miyasabon@yahoo.co.jp) 電話：080-5585-3416(島田)**

**まずは見学(無料)から！ 費用は年会費のみ 1000 円です。**

## サークル紹介

### フランス語サークル`Bonjour`

代表 木戸 源一

1. 授業は水曜・土曜に隔週・毎月2回ずつ行っており、午前10時30分より90分です。

1) 水曜コースは4年前から始められ、テキストの読解が中心で文法にウェイトをおいており、今まで`アルセーヌ・ルパン` `三銃士` 等のリライトしたものを使用。フランス語検定2級合格者(元英語サークル会長)を中心に和やかな勉強を行っており無料。(在籍者7名)



2) 土曜コースは北大留学生(今はアフリカ・コートジボワール出身の Koffie 夫妻)の初心者中心の親しみのある指導で会話にウェイトをおいており分かりやすいと好評です。説明は英語とカタコトの日本語ですが通訳もあり、2ヶ国語の勉強にもなります。月謝2千円。(在籍者11名。10年前にスタート)

2. 端緒は10年前に杉山東樹氏(学友会顧問)が Volunteer Guide で20歳のフランス人(M. Guy)氏を市内観光したのが縁で発足し、Guy氏は、今、札幌在住しており交際は続いています。来年2月には「10周年祝賀パーティー」を盛大に開催する予定で、この時には記念講演会、記念文集も発行する計画です。

サークル存在意味・効果ですが、平均すると週1回、90分の授業で果たして語学上達の効果はあるのか?高齢者の私には誠に心もとない話です。

- 1) でも水曜コースの若い女性がフランス語検定準2級に合格し、2級を目指しており、サークル参加をテコとした語学力向上の成功例と言えます。
- 2) 海外旅行の応用例で、土曜コースのリーダー役の方は、留学生との接触機会が多く外国人アレルギーが少なくなり、毎年のようにフランス旅行を娘さんとしていて、ついに娘婿にフランス人を選んだ程でした。これもサークル効果と言えるでしょう。年に2~3回、先生を交えた課外授業(主としてレストランの会食)などを通じて人間的交流も生まれ、外国の文化・生活・習慣が直に感じられるのも収穫の1つです。



連絡先: 携帯 090-3778-1715

email: [gen-kido@khaki.plala.or.jp](mailto:gen-kido@khaki.plala.or.jp)

### 会費納入と新入会員募集のお知らせ

2017年度の継続会員の方は、今年度の年会費1,000円を下記口座へお振り込みくださるようご協力をお願いします。

また、同窓生の中で同窓会に入会していない方がおられましたら、入会をおすすめくださるようお願いいたします。

入会を希望される方は、郵便振替用紙に「氏名、住所、電話番号、卒業年月、専攻」をご記入の上、入会金1,000円、年会費(初年度)1,000円を下記口座へご送金ください。(次年度以降は年会費のみとなります。)また、70歳以上の方は、1万円で終身会員となります。

ゆうちょ口座名 放送大学北海道同窓会  
口座番号 02740-0-37725

### 放送大学を宣伝してください！

皆さんの『ロコミ』で、放送大学に入学して良かったと思うことを、大勢の方々に知らせてください。

入学等に関する問合せ先

放送大学北海道学習センター  
TEL 011-736-6318

### 「会員の声・読者の声」募集中！

現在、会員や読者の皆さんの声を募集しております。皆さんの近況や会報へのご感想、ご意見がございましたら、是非、お寄せください。

(宛先) 〒060-0817

札幌市北区北17条西8丁目 北海道大学構内

放送大学北海道学習センター気付

放送大学北海道同窓会

学習センター事務室内ポストに直接投函可

FAX・Tel 兼用：011-642-2389 中根

### 新入会員のご紹介！！

#### 2017年9月修了・卒業生

(人間と文化) 田尾 信弘

(社会と産業) 溝井 伸也・及川 博征

斎藤 公威・市川 喜通・櫻庭 渉・山田 英雄

(心理と教育) 宮本 みゆき (敬称略・順不同)

(2017年9月30日現在) 以上 7名

〒・住所・電話番号などの変更のときは、必ず、ご連絡をお願いします。



### 編集後記

10月28日(土)放送大学放映の「大学の窓」で、北海道学習センターの第9回の文化祭の様子が紹介されていました。その中で特にFeatureされていたのは、前田春香さんの10点あまりの絵画とインタビューでした。前田さんは9歳の時スキー事故のため、手足を動かすことも呼吸器なしで生きていくこともできない状況のなか、口に絵筆をくわえて絵を描くことをはじめて、これまでに2冊の絵本を出版されています。語学研究会の「英語」のクラスで机を並べる前田さんの絵を、文化祭で改めて拝見した時、それが創造力の世界を含めて2冊の絵本から一段と前進しているとの印象を持ちました。短期間での技量の向上には、大変な努力があったに違いありません。同時に「継続する力」に大きな刺激を受けるとともに、叱咤激励された思いがしました。学業を続けていく過程は、前進と停滞の繰り返しですが「継続」の姿勢はもち続けなくてはならないとの気持ちを新たにしました。(編集委員長 沖野茂夫)